

自由民主党 信頼の小金井

SHINRAI NO KOGANEI

会派ニュース
No.30
令和6年11月発行



小金井公園での市民まつりは再開のめど立たず！

令和6年の秋の小金井公園での市民まつりは中止になり、令和7年度の再開に向け協議を続ける、としていた白井市長でしたが、来年度の予算を決める時期でもある9月議会においても具体的な方策は示されませんでした。発端は、令和5年度まで市民まつりの事務局を続けてきた小金井市商工会が、次年度以降の事務局を辞退したことでした。



市は商工会に代わる団体等を探し打診をしたものの受託者が見つからず、1月中旬には「市民と市が協働でつくる新しい交流の場としてのまつりの在り方を検討する」と議会で発言しました。しかし、この「市民と市が協働でつくる新しいまつき」とはどのようなものかの説明はなく、これまで実行委員会に参加していた部門別の代表の方々と2回協議はしていたものの、その途中経過も決定事項の詳しい説明もないまま、前年の市民まつきから約1年が経過しました。

そして、9月議会の総務企画委員会において、

市は新たな市民まつきに向けてとして、3つの方針を示しました。



1 新しく市に転入してきた市民の方に関心をもってもらえるまつき

2 市民活動団体の活動発表の場

3 市の中心で行うまつき

新たなまつきは市の中心で・・・？！

問題は、3つ目のまつきは「市の中心」という点で、これは小金井公園でのまつきは今後行わない、ことを意味しています。市の中心とは具体的にどこかは未定ですが、小金井公園でのまつきは不可能ということになり、これによって今まで参加してきた団体が今後参加できるか、また開催時期についても変更があると参加できない団体が出てくるかもしれないことを考えると、ここまで決める前にこれまでの参加団体への丁寧な説明と意見聴取は必要だったのではないかと思います。

こうした状況を受け、9月議会の最終日の10月8日に、議会から市長あてに決議を提出しました。その中の要望項目は下記のとおりです。

1 新たな市民まつりの再構築のために、正確な現在の状況が伝わっていない旧市民まつき一般部門の出展団体等に対し、説明会を開催し現状報告するとともに今後の在り方や検討方法について意見を聴くこと。

2 今後の市民まつりの在り方を検討するための会議体の設置を具体化すること。会議体の参加対象を拡充し、広く様々な団体や市民を集めることで、市民まつきとしてふさわしい理念が示され、共通認識となるよう努めること。

3 市民まつりの本格的な再開までの間のつなぎ事業の方針と、今後の在り方の二つの方向性について、本年度中には議会に示すこと。



近隣都議と共に都に申し入れ!



要望書の
内容は
こちらから

3・4・11号線の早期整備を求める!

市政の重要課題のひとつである「3・4・11号線」について、東京都建設局長に、浜中都議(西東京)、増山都議(府中)、本橋都議(国分寺・国立)、磯山都議(小平)の近隣自治体の都議団と共に、要望書を提出しました。

白井市長は事業化の中止・見直しを求める要望書を都に提出すると公約に掲げ当選し、

現在要望書を提出するため、当路線の必要性について市独自に検証を行い、総合的に判断するとしています。

しかし、整備を中止した場合の地域が抱える課題の解決策については、この間何も示さず、市民からこの現状を不安視する声が上がリ整備推進の要望書も提出されました。

市民の生命と財産を守り経済活動を下支えする都市基盤整備を進めるため、都に2点要望しました。

1 ▶ 3・4・11号線の早期整備の実現を図りたい

2 ▶ はげや野川などの現にある自然環境に配慮した道路構造とすること

是非ご参加
ください!

オープン
ハウス
開催

日時	令和6年	11.29	FRI	18:30~21:00
		11.30	SAT	10:00~17:00
		12. 1	SUN	10:00~17:00

会場

小金井
宮地楽器
ホール1階

夏の猛暑での対策

異常気象の下、

市議会議員

五十嵐 京子

Kyoko Igarashi



熱中症対策の強化を図るために改正された気候変動適応法等が、今年4月に施行された事を受け、**小金井市は庁内に熱中症対策推進本部を設置し、この夏クーリングシェルターと涼み処を設置しました。**昨年は、災害級の夏の暑さを凌ぐために公民館や集会所を避暑の場所としてしてほしいと要望していましたが、今年は法律に後押しされた格好で涼み処等が設置されました。まだまだ周知にも課題があり、来年は更なる充実を、と要望しています。



23名へ削減しよう!

議員定数を24名から

市議会議員

河野 麻美

Asami Kawano



人口が本市と類似する自治体では既に議員定数を22名に削減しており、議会費の割合も本市より低い状況にあります。地方自治法では「**最少の経費で最大の効果をあげる**」ことが求められ、議会も真摯に取り組まなければなりません。

我が会派は定数を現状の24名からまずは23名に削減する「**小金井市議会議員定数条例の一部を改訂する条例**」を提案しました。次の市議選から施行するため議会運営委員会に付託し、これから審査されます。



市議会議員

遠藤 ゆりこ

Yuriko Endo

都は市町村の給食費無償化に対する**補助割合を2分の1から8分の7に引き**

上げる方針を表明しました。

市は新聞社のアンケートに「来年1月の3学期から完全無償化に向け、前向きに検討する」と答えています。今年4月には全23区で無償化が実現しており、多摩地域では23年4月時点で無償化した自治体はゼロ。

実施された場合、

都から→約53,000万

市の持ち出し→7,000万から7,500万に。

動きあり!!

学校給食完全無償化に



市議会議員

吹春 やすたか

Yasutaka Fukiharu

震災被災地から災害関連死で多くの方が亡くなったと報告されています。

災害関連死は防げます!救える命です!

そのためにはまずはトイレの準備を拡充させましょう!

災害被災後は使用可能なトイレをひとつでも多く確保することは命を守ることにもつながります。避難所の既存のトイレは汚物汚水が逆流する「**トイレパニック**」で使えません。マンホールトイレの更なる拡充や携帯トイレ簡易トイレの行政と家庭での備蓄を推奨します。

「災害関連死」を防ぎ減らすためトイレ拡充を!

